

令和4年度 第4回社会教育委員会議事録

【日時】 令和5年（2023年）3月28日（火）13:58～15:42

【場所】 生涯学習センター2階 市民ホール

【出席委員】

| | | | |
|----|-------|-----|--------|
| 議長 | 梨本 加菜 | 副議長 | 櫻井 聡 |
| 委員 | 臼井 護 | 委員 | 浦野 千鶴 |
| 委員 | 加藤 春樹 | 委員 | 小林 純子 |
| 委員 | 八矢 信宏 | 委員 | 林 但 |
| 委員 | 蛭田 道春 | 委員 | 松本 敬之介 |
| 委員 | 山岸 雅人 | 委員 | 渡辺 孝夫 |

【欠席委員】

| | | | |
|----|-------|----|-------|
| 委員 | 塩野谷純香 | 委員 | 志村 直愛 |
| 委員 | 濱田 恵里 | | |

【事務局出席者】

| | | | |
|----------|--------|--------|-------|
| 教育総務部長 | 古谷 久乃 | 生涯学習課長 | 柿原 美奈 |
| 同課係長 | 島内 さおり | 同課主任 | 遠藤 雅弘 |
| 同課アシスタント | 杉山 一美 | | |

【オブザーバー】

| | | | |
|----------|-------|----------|-------|
| 生涯学習財団局長 | 高橋 直人 | 生涯学習財団主任 | 大柴 裕二 |
|----------|-------|----------|-------|

1. 開会

議長が会議の開催を宣言し、会議を開始した。

2. 教育総務部長挨拶

教育総務部長から、挨拶を行った。

定足数について

委員15名のうち12名が出席し、出席者がその半数を超えるため、社会教育委員会議事規則第4条第1項の規定に基づき、事務局が会議成立を報告した。

その他

傍聴人の確認（傍聴者 1 名）、配布資料の確認を行った。

3. 報告 令和 4 年度神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会（箱根町会場）について

委員から報告を行った。

- 議長 補足はあるか。
- 委員 事例発表の中で横須賀市と比べて、できることとできないこともある気がした。特に事例発表 1 の明星会の取り組みで小学校 3 年生が社会教育センターに施設見学に行き、活動しているグループの活動を覗いて、陶芸の焼いているところや茶道を見て子どもたちは大変感激するとあった。実際、横須賀市でそのようなことができればよいと思い、見てみると各コミセンの祭りは土日が多く、学校の授業として参加は難しい。施設見学だけでは意味がないと思う。施設を使った活動を子どもたちに見せることに意味がある。今後考えていく必要があると思った。
- 委員 人権講話で話があった SSW と SC について、十分に理解をしていなかった。環境、目線、立ち位置の違いが分かりやすく説明されていた。SSW と SC に比べて社会教育委員は個々の子どもたちに向き合うという機会があまりないのかもしれない。子どもたちの環境を通じてよりよい学びの場、生活の場が適応されるような形への働きかけができればよいと思った。
- 議長 質問はあるか。
- 委員 事例発表の中で特に良かった点があれば伺いたい。
- 委員 学校が平成 31 年から合併がはじまって、小学校は 5 校から 3 校、中学校は 3 校から 1 校になった。バスを使っている子どものために通学バスがあるが、祭りのためにもバスをまわしたりしていてすごいと思った。
- 議長 学校の統合は全国的な話題になっているが、社会教育センターとの連携、学校と地域の連携でよい示唆が得られたのではないかと思う。

4. 議事

(1) 市民大学講座について

事務局から、資料 2 の 1 について説明を行った。

公益財団法人横須賀市生涯学習財団の職員から補足説明を行った。

- 議長 質問等はあるか。
- 委員 別の場所でワークショップを開講する機会があるが、心理的なハードルがあり、自己開示に対して抵抗感の強い方が参加を躊躇される傾向がある。ワークショップ形式の場合は、参加型、みんなで話し合いをすることをあらかじめきちんと明記することもひとつ配慮事項として気を付ける部分である。

- 委員 参加者の年齢別、層別、カテゴリー・ジャンル別のデータは持っているか。50代をターゲットにするのであれば、年齢別、層別のデータがあるほうが役に立つのではないかと思う。
- 議長 前回は年齢別やジャンル別のデータは示されていないが、事務局いかがか。
- 事務局 今すぐ出せるデータはないため、生涯学習財団と相談をし、受講の履歴などを整理したうえで、後日、回答する。
- 副議長 コアな受講者は70歳代だと見ているが、ワークショップ型は年齢層が違うのではないか。50歳代をターゲットとしたときに仕事などもあるので、オンデマンドやインターネットを利用して好きな時間に好きな分だけ見ることが肝になると思う。70歳代で人気がある講座をオンデマンドにしても50歳代には響かない。70歳代はオンデマンドに魅力を感じない、扱いやすいとは思わない。使い分けが必要である。そのためにもジャンル別やコンテンツ別で年齢別をクロスしたデータがあるとよい。50歳代に人気のコンテンツをオンデマンドに持って行ったほうが、将来性があると思った。
- 委員 講座の内容、目的、対象によって、形式、募集する参加人数、時間が変わってくるので、問いに対する答えが見つからず困っている。
- 委員 現在は、教育内容・方法・形態等とこれから学びたい領域・内容とをクロスしたデータにより講座を企画していると思う。参加する年代によって学習ニーズが異なると思うので、主な動向があると参考になり、委員の皆さんも意見が言いやすくなると思う。
- 委員 今の講座はどのように回数、募集人数を決めているのか。なにか困っていることがあるか。
- 財団職員 現在、ジャンル別、世代別をクロスしたデータはない。実績として、ワークショップ形式は人数がなかなか集まらないので、実施している回数が少なく、全回ワークショップという講座ばかりでもなく集計が難しい。例えば、令和4年度後期講座「いざ出陣！三浦一族ゆかりの地をめぐる」もフィールドワークで人を集めて、ワークショップを組み合わせ、壁新聞制作による学習成果発表までもっていく形とした。現在募集中の、令和5年度「崩し字を読んでみよう」はグループに分かれて自分たちで解説し、レポートをまとめるワークショップ形式。募集定員は少なめの40人としている。また、ここ数年の大きな課題は、赤字が続いていること。受講者数、受講料収入を増やせるよう、なるべく人数が集まる講座を開催していく方針としている。新規の方は少ない回数の方が受講しやすいのではないかと考え、令和4年度はコマ数を減らして講座数を増やすことにより成功したと分析している。新しい講座は少ない回数でやってみて、人気があれば、継続したり、連続講座として回数を増やしていくなど考えている。
- 委員 令和5年度前期講座の表紙を見ると3つのカテゴリーに分けているように見える。カテゴリーやジャンルの例として、海外旅行、第1産業、スポーツ、健康、横須賀出身の著名人の人生観、次世代に残すべき文化などがよいのではないかと思った。
- 委員 財団は現在、50歳代60歳代の強化を考えているとのことだが、そもそも効果があるのか。この世代は時間の余裕がなく、興味をもたないのではないか。ターゲットが本当にこの層でよいのかと思った。
- 委員 受講料の違いは何か。また、私は70歳代80歳代の方の参加が逆に少ないと思っている。この年代の方がくれば、家族が興味をもって来るかもしれない。年齢層にこだわり過ぎる

と市民大学が潰れてしまうのではないかと心配である。年齢層にこだわらず、オープン型が大事である。人数が少なくないといけない講座もある。多様な視点で多様な組み合わせをしていくことが大事である。

議長 受講料について、大学は半期 15 回と時間数が決まっているが、市民大学は講座の内容に合わせて柔軟になっていてよいと思った。受講料の根拠はあるか。

財団職員 受講料は規定で決まっている。基本の受講料は 1 コマ 600 円から 1,800 円である。前期講座「2 三浦半島に生きる」の講座については 1 コマ 600 円を 8 回で 4,800 円。前期講座「1 ペリー来航」は 1 コマ 600 円を 10 回、乗船料 1,000 円、保険料 50 円、フィールドワークの際は引率の職員を増員するのでその分、などを換算して 150 円で 7,200 円としている。さらに配布資料にカラー印刷が多い場合は 100 円加算、枚数が多い場合は 100 円加算などもある。また、楽器の演奏付き講座など講師が 3 人 4 人来る場合等は経費を加算して受講料を決めている。

議長 講座開催側の課題などについて、「受けたい講座をみんなでつくろう市民大学講座企画ボランティア」に参加した委員からご意見いただけるか。

委員 「食べてダべてってコミュカアップ」の講座は 20 人定員に対して 19 人の応募があった。実際の参加者は 13 人だった。「子連れで参加できるのがよかった」「コロナ禍で友達作りができなかったが友達や仲間ができた」と、8 割位アンケート結果にでていた。運営は大変だが、子育て世代向けに子連れでも参加ができる講座を増やしていったらよいと感じた。令和 5 年度前期講座 13 ページに「ミドル世代のためのマネー講座」や令和 4 年度前期講座 12 ページに「セカンドライフのためのマネープラン」があるが、40 歳代 50 歳代向けなど対象を幅広くしたマネー講座あるとよい。リタイア世代とミドル世代の比較があってもよい。民間の他の講座は保険などの勧誘や営業がある場合があるため、市民大学での受講は安心だと思う。

議長 保険の在り方、資産運用などを一緒に考えていく講座は 30 歳代以下や大学生、高校生もターゲットになると思う。

委員 健康、漢方、薬膳などは 40 歳代 50 歳代も気にかけている。民間でも講座をやっているが、公的な生涯学習センターでしかできない講座がある。受講料の設定方法についても実際に詳細を聞くと安く感じる。市民大学は大変大きな役割を果たしていると思う。

委員 横須賀市の市民大学について他の市町村で話をすると、年間に 50 本はすごいと感心される。講師の顔ぶれを見てまた驚かれる。これを維持しつつ、なおかつ新しいことにチャレンジする取り組みが始まっていると理解している。1 にも 2 にもマーケティングである。子育て世代にはこれが刺さる、40 歳代 50 歳代にはこれが刺さるなど、「受けたい講座をつくろう市民大学講座企画ボランティア」は今までにない視点の講座で需要があることがわかった。今、需要がある、人気のある講座を維持して、収入を得ておきながら、これから 10 年 20 年後の受講生を育てていける講座を同時に取り組んでいく戦略的なやり方が必要であると思った。世代によって、生活スタイル、時間消費の仕方、余暇の使い方は異なる。受けたいと思う人たちにどういうメリットがあるのかを考えていく。マネー講座はタイトルに「40、50 歳代からはじめる」の一言をつければ対応できる。今ある講座もちょっとし

た工夫で対応可能となる。

議長
財団職員

英語、TOEIC、英会話のターゲットはどこか。どのような成果をあげているか。
TOEICなどは現役世代をターゲットにして、夜間に実施している。参加者は若い人が多い。20人前後参加している。年配の方は夜間来にくい。現在募集中のマナー講座も夜間に現役世代向けに設定している。コロナ禍が落ち着いてきたため、英会話を復活させた。現役世代も参加できるように日曜日に設定している。

副議長

インターネットで、全国市民大学連合で受賞された講座を調べると他の市では、まちづくり研究、シニアふれあい農場、まちガイドブック作成、ガイドボランティアなど、まちづくりに関連する講座が多くみられる。市民大学ではあまり見られない内容だが、人が集まらないという認識か。

財団職員

市民大学とは別で、指定管理事業のひとつである学習成果活用事業で開催している。人集めでやる講座ではないと思っている。地域で活躍する市民の養成講座として「受けたい講座をみんなでつくろう市民大学講座企画運営講座」を実施した。過去には紙芝居のグループ養成講座があった。講座後、参加者でグループを立ち上げ、毎年10公演程、開催し活躍して、地域のために還元をしている。科学体験サポーター養成講座の修了生が横須賀学院で定期的に子ども向けに科学体験講座を開催するグループになるなど、人材の育成をしている。基本無料で開催している。

副議長

オンデマンドについて、対抗するコンテンツはユーチューブだと思うが、ユーチューブはデータが多く、しかも無料である。相手があまりにも巨大でここに対抗するのは並大抵ではできない。そうした意味で市民大学として、オンデマンドが本当に必要なのかと思った。受け手からも質問ができる講座が重要になってくると思う。

事務局から、資料2の2について説明を行った。

公益財団法人横須賀市生涯学習財団の職員から補足説明を行った。

議長
委員

質問はあるか。
経験者には引き続き広報を行う。未経験者には目に触れるもので広報よこすかが一番よいようだが、改善はできないのか。タウンニュースは有料だが、検討してよいと思う。ポスターは各町内会に市の掲示板は1か所位しかないで、他の掲示板にも貼れるとよい。

委員

そもそも若い人に市民大学の認識がない。市民大学についての説明などをキャッチーな言葉にしたり、若い人向けのポスターにしたほうがよい。ラインやツイッターはキャッチーな言葉が出てこないとわからない。また、野比中学校は校門の外に町内向けの掲示板があるので、ポスターを貼ることができる。他校は交渉による。

議長
副議長

ネーミングや広報のデザインは検討の余地があるかもしれない。
広報について、何を見て受講されたかというアンケートは取っているのか。

財団職員

毎回アンケートで伺っている。令和3年度の集計結果ではまなびかんニュースが多かった。

副議長

既存の受講者が見て繰り返し参加しているということだと思う。新規の方向けとして、ラインで無料クーポンや割引クーポンなどのようにクーポンコードをつけることは可能か。

- 財団職員 無料クーポンは実施していない。まなびポイントの特典で聴講無料券の発行がある。本人以外も使えるので、まだ受講したことのない友達を誘って参加することができる。
- 副議長 そのようなことをうまく使うと新規が取れるのではないかと思った。インターネットで他の地域を調べてみると地方自治体の広報紙が 65.8%、チラシが 60.8%、新聞 54.4%、ラジオ・テレビなどメディア 39%、パンフレット 25.3%、回覧板・掲示板 23%、タウン紙 12.7% とある。お金がかかるというのが正直な印象である。回覧板・掲示板が比較的金がかからず使えるところだと思った。
- 委員 さきがけ講座での誘い込み戦略が大成功してよかった。さきがけ講座のチラシをジャンル毎にそれぞれ分けて作成して、一律に配るのではなく、年齢層に分けて配るなどを繰り返して効果があるかどうかの統計を取ったら面白いと思った。広告媒体をうまく使えばうまくいくと思う。

5. その他連絡事項

事務局から事務連絡を行った。

最後に、議長が閉会を宣言し、会議は終了した。

(閉会)

以上のとおり相違ありません。

議事録署名年月日 令和 年 月 日

議事録署名人